

平成20年度 そして

12月 定例会

平成20年度 決算特別委員会報告

平成20年度六栗市一般会計ほか特別会計として・国民健康保険事業・国民健康保険診療所・鷹巣診療所・老人保健事業・後期高齢者医療事業・介護保険事業・簡易水道事業・下水道事業・農業集落排水事業・水道事業・病院事業・農業共済事業の全13会計の歳入歳出決算が特別委員会で審議され、12月議会初日、委員長報告の後、数件の反対、賛成討論があり、すべて認定されました。

委員長報告

世界経済の百年に一度という歴史的な不況により、国においては経済危機対策関連補正予算が編成され、それに呼応して六栗市としても迅速に補正対応し関連施策に取り組まれた。一方、六栗市合併4年目にあたり活性化と改革の実現を目指した「実行の年」として積極的に取り組まれ、庁舎建設完了に伴う山崎市民局の本庁舎統合、地域情報通信基盤整備事業への着手等期待される施策を遂行された。

財政全般では地方再生対策債などにより普通交付税が前年度より約3億円増になったものの、財政健全化計画等を踏まえ、職員数、事務の効率化による経常経費の削減、また繰上償還処理等で改善努力はされているとはいえ、まだ厳しい状況にあることは否めない。

税及び各使用料等の滞納は、その徴収業務に対する不備を指摘する意見が数多くあり、特に税の不能欠損については受益と負担の公平化の観点から安易な処理は許されず、滞納者との接触の機会を増すなどの努力が必要である。

し尿券不正問題は内外に市の信用失墜をもたらす憂慮すべき事態であり、国県の交付金なくしては事業施策を推進できない当市としては、国、県、市民の信頼回復に向け、早期解決と再発防止の仕組みを構築しなければならぬ。悪しき事象は速やかに排除し、明るい善行と努力が感謝と喜びと新たな付加価値を生み地域に幸福をもたらすような、即ち、善の循環が生まれる健全な市行政の仕組みを創る必要がある。子供たちは未来からの旅人である。



多くの傍聴者があった一般質問初日

あり、世界はグローバル化の波の上にある。中山間にある六栗市だが、子供たちの未来のために、何としてでも時代を先取した教育を準備しなくてはならない。教育委員会の努力に期待したい。
 ・・・・以上のことが決算特別委員会の総意であり、報告します。

決算特別委員会名簿

(平成20年度決算の認定審査に係る委員会)

【決算特別委員】

委員長	秋田裕三
副委員長	藤原正憲
委員	寄川靖宏
委員	西本諭
委員	福嶋斉
委員	大倉澄子
委員	實友勉
委員	山根昇
委員	岩路昭美